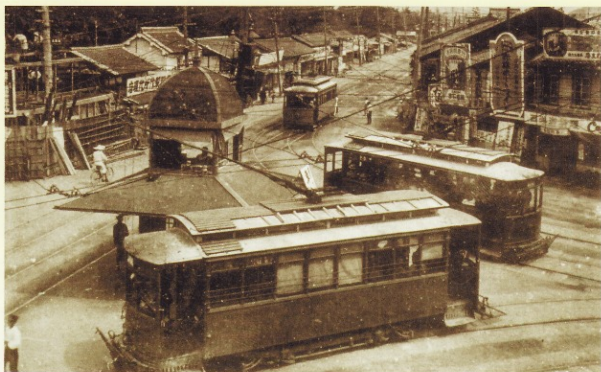


—市民が描いたあの日の記憶—
広島平和記念資料館



路面電車が語るヒロシマ



—写真と資料で見る創業・被爆・復興—
広島県立文書館

はじめに

広島路面電車は、大正元年(1912)の開通以来、戦時中を経て現在に至るまで、市民に身近な乗り物として親しまれてきました。このたび、広島県立文書館と広島平和記念資料館はこの路面電車をテーマとし、「路面電車が語るヒロシマ」と題したジョイントの展示会を開催します。県立文書館では写真と文書で路面電車の創業から復興までの歴史を紹介し、平和記念資料館では「市民が描いた原爆の絵」の中から約60点の路面電車にかかわる絵を選び、原爆の悲惨さを訴えています。路面電車を通して、広島歴史と原爆被害の実相についてご理解いただければ幸いです。

路面電車の創業

広島路面電車は、明治43年(1910)6月18日に広島電気軌道株式会社として設立され、大正元年(1912)11月23日、第1期工事として広島駅～相生橋間・紙屋町～御幸橋西詰間・八丁堀～白島間が開通しました。路面電車の軌道は、いずれも堀や河川の埋立地に敷かれましたが、開通後から徐々

にぎわいを見せ始めました。八丁堀付近には活動写真館などが建ち並び、盛り場として発展しました。また、紙屋町付近では、昭和期に入り、銀行や保険会社の建物が相次いで新築移転し、近代的なビルが建ち並び金融街を形成しました。



①創業当時の切符
乗車の際、電停名の箇所に改札ばさみで穴をあけた。

②相生橋を渡る100形電車
創業当時は、現在の相生橋がある場所に電車専用橋が架けられていた。昭和7年(1932)になって、車と電車の併設橋に架け替えられた。



③創業期の紙屋町交差点を走る100形電車
創業当時の路線のうち、八丁堀～相生橋間、八丁堀～白島間はいずれも広島城の三の丸外濠を埋め立てた上に敷設された。交差点後方には、広島城外濠の石垣が見える。



④紙屋町交差点の様子

(上)北から南(宇品線)方面を見た所。中央部の大きな建物が芸備銀行(現広島銀行本店、その隣が住友銀行広島支店)。(下)中央の建物は交差点にあった待合所。2階では通行する電車を監視し、ポイントの切り替えを行っていた。





⑤宇品西海岸通りを走る100B形電車

大正4年(1915)4月8日に、専売局前(御幸橋東詰)～向宇品間が単線で開通した。現在の宇品線の路線とは異なり、宇品西海岸の堤防沿いを走っていた。現在の路線に移設されたのは昭和10年(1935)12月27日であり、同時に単線から複線になった。



⑥御幸橋を渡る電車

宇品堤防線が開通した当初は、御幸橋は電車が通っておらず、御幸橋西詰から東詰電停まで徒歩で渡っていた時期があった。大正8年(1919)5月25日に電車専用橋ができて宇品線が直通運転となった。写真の車と電車の併設橋は、昭和6年(1931)に新設されたもの。

被爆時の惨状

昭和20年(1945)8月6日、一発の原子爆弾により広島市の街は壊滅し、その年の12月末までに約14万人が亡くなりました。市内の中心的な交通機関であった路面電車もこの惨禍をのがれることはできず、123両中108両が被災するという壊滅的な被

害を受け、乗務員、乗客など多くの方が亡くなりました。燃え上がる駅舎、黒焦げとなった乗客、水を求めて線路に横たわる重傷者…見慣れた電車のある風景は一変し、市民の目の前に悲惨な光景が繰り広げられました。(⑧～⑩、⑬～⑭は途中解説を引用)



⑦紙屋町交差点の東方で被爆した電車 昭和20年(1945)末頃

電車からの脱出 ⑧⑨



⑧やけどを負い髪はバサバサ、半裸で電車通りを逃げる人々
昭和20年(1945)8月6日 原爆投下直後
八丁堀歴百貨店前



⑨「出して」戸を開ける」…外にでると四方火の海だった

昭和20年(1945)8月6日 午前8時15分
十日市町交差点北側
十日市電停発車まもなく真暗闇になり何がなんだかわからない。車内は大混乱。押し合いもみ合い、我勝ちに外に出た。四方火の海、赤熱の地獄である。

車内の惨状 ⑩⑪



⑩焼けた電車の中の炭化した死体、死体…
昭和20年(1945)8月7日/天満町
人間の黒焦げが電車の中から点々と外に倒れ、もう炭と言っている。人間の炭…。信じられないことだった。



⑪片目がとび出た男がこちらに向かってくる
昭和20年(1945)8月6日/比治山橋
比治山方面行きの市内電車が止まって延焼中。窓から真っ黒に焼け焦げた人間がぶら下がっている。電車に乗っていた人々全員は一瞬にして死亡。

電車通りの惨状 ⑫⑬⑭



⑫電線に髪の毛が巻きついて宙づりになった女性
昭和20年(1945)8月6日/横川新橋付近
電車のトロリー線に爆風で女の人の髪の毛が巻きついて、宙ブランとなっている。

⑬血まみれの子を背負い、肉親を呼び続ける男
横川電車通り(横川町)
12、3才位の鮮血にまみれて死んでいる男の子を背負いながら、4、5才位の男の子の手を取り、肉親の名を呼び続ける男の、右の眼から止めどなく流れ出る血も痛々しい。



⑬川に浮かぶたくさんの死体
昭和20年(1945)8月7日/橋川新橋
悲惨な姿を見て胸がつまり、土手に座してめい福を折り、黙とうを捧げる。

駅に集まる負傷者 ⑭⑮



⑭助けを求める足の先がない中学生
昭和20年(1945)8月6日 午前10時ごろ
広島駅宇品線ホーム(松原町)
たくさんの避難する人々の足元で「助けてください助けてください」と叫んでいた中学生の姿が。その声。今も忘れることができません。



⑮トラックに乗せられる被爆者たち
昭和20年(1945)8月7日 朝
己斐電停前広場(己斐本町)
トラックの中の方はヒーヒー泣いておられ、本当に人間とは思えなかった。



救護を待つ人々 ⑯⑰

⑯負傷者でごったがえす救護所
昭和20年(1945)8月7日/基町
太田川の土手にテントを張って、被爆した重傷の兵隊を取容した。やけどした顔にチンク油を塗って、ガーゼをのせるのがせいっぱいであった。



⑰レールの上に寝かされた負傷者に、
数万匹のハエがおそいかかる
昭和20年(1945)8月8日 午後/江波線(内入中町)
破れムシロにて西目を防いで、数万匹のハエに襲われているところ。



⑰横川駅前に集まる大けがをした人々
昭和20年(1945)8月6日 午前10時/橋川駅前(橋川町)
市内で被爆して、辛うじてのがれた被爆者たちが、安佐郡方面に避難するため、続々と集まって来ます。全身焼けた娘の子連れの人、大けがをした親子連れなどなど。

復旧から復興へ

原爆投下後、「75年草木も生えない」と言われた広島で、人々の懸命な復興作業が始まりました。応急的な復旧から水や電気などのライフライン、そして交通、通信の回復と本格的な復興へ…。その中で路面電車は、被爆3日後の8月9日に早く

も運行を再開しました。被爆直後に運行できた車両はわずか数両のみで、人も物も不足する中での復旧は困難を極めました。焼け野原となった広島に動き出した電車の姿は、市民を大いに力づけました。



①復旧一番電車の中

昭和20年(1945)8月9日

会社の人から切符もつり銭もないかばんを手渡され、「お金のない人からは、電車賃もらわんでもええで」ということでした。運行時間も休み時間もなく、お客がおおよそ座られたら発車するといった具合でした。「おお、電車が動くんか」と驚かれる人、「鉄橋が怖いけん」とありがたがる人、色々でした。

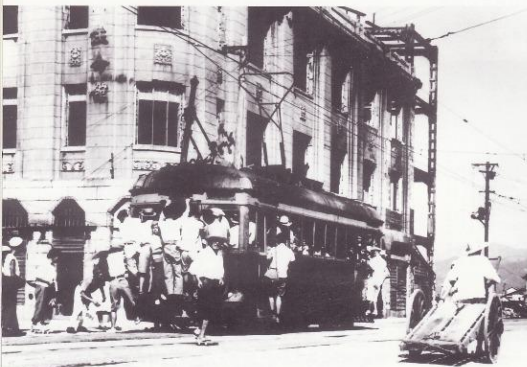
(「復旧後の一番電車に乗務して」より抜粋)



②焼け野原の市街での軌道修復

紙屋町交差点から八丁堀方面を望む

焼け野原となった市街で、復興に向けた軌道修復工事が行われた。道路わきには、焼け焦げた電車がまだそのまま放置されている。



③被爆車中に鈴なりの乗客

昭和21年(1946)

福屋百貨店旧館

8月9日に巴斐～西天満町間が折り返し単線運転を開始。10月11日までに巴斐～広島駅、紙屋町～宇品間が復旧し、被爆から2カ月余りで市内の主要路線に電車が走り始めた。運行車両が少なく、運転間隔は30分～1時間に1本の割合で、どの車両も人が鈴なりになっていた。

■広島路面電車年表

明治43年(1910)	昭和13年(1938)	昭和25年(1950)
5.18 広島電気軌道株式会社設立	12.14 横川線 左吉町～柳川間を復線化	3.10 併用軌道橋高木橋が完成し、縮尺橋軌道専用橋移設
大正元年(1912)	昭和17年(1942)	昭和26年(1951)
11.23 市内線運転開始 本線広島駅前～紙屋町～相生橋	4.10 広島瓦斯軌道株式会社から、鉄道・軌道・自動車部門を分離し、広島電気株式会社を創立	4.1 宇品線向宇品～宇品間の複線延長運転開始
12.3 本線川線(現宇品線)紙屋町～廣野橋 御幸橋線(現宇品線)廣野橋～御幸橋 常葉(臨)線(現白島線)八丁町～白島	昭和18年(1943)	昭和27年(1952)
12.3 本線相生橋～左吉町～土橋～己斐の運転開始	12.18 江波線土橋～舟入本町の複線運転開始	3.31 白島線軌道移設工事完了
大正4年(1915)	昭和19年(1944)	6.10 白島線八丁町～白島の複線運転開始
4.8 宇品線専売局前～向宇品(通称湯乃下線)の運転開始	6.20 江波線新長舟入本町～舟入南町の単線運転開始	昭和29年(1954)
大正6年(1917)	12.27 皆実線の橋～比治山下～皆実町三丁目の複線運転開始	1.7 江波線舟入南町～江波の複線運転開始
8.2 社名変更し、広島瓦斯軌道株式会社として発足	昭和20年(1945)	8.14 本線船荷大橋～紙屋町の軌道移設工事完了
11.1 横川線左吉町～十日市～柳川駅(単線)の運転開始	3.7 江波線舟入本町～舟入南町の単線を復線化	昭和31年(1956)
大正8年(1919)	8.6 広島市に原子爆弾投下、市内全線が不通	4.30 本線紙屋町～十日市の軌道移設工事完了
5.25 御幸橋の軌道専用橋竣工(御幸橋～専売局前間が廃道)	8.9 本線西天満町～己斐の復旧運転開始	5.1 横川線柳川終点付近軌道移設工事完了
大正11年(1922)	8.15 本線小網町～己斐の復旧運転開始	昭和32年(1957)
8.22 高島線己斐～草津の運転開始	8.18 宇品線半鐘前～向宇品の復旧運転開始	3.13 宇品線紙屋町～廣野橋の軌道移設工事完了
8- 廿日市変電所新設	8.19 本線土橋～己斐の復旧運転開始	昭和33年(1958)
大正13年(1924)	8.21 十日市～己斐の復旧運転開始	3.16 「電鉄」という名称を「広島」に改称
4.6 宮島線延長 草津～廿日市の運転開始	8.23 本線左吉町～己斐の復旧運転開始	4.1 宮島線鉄道と市内線軌道の直通運転開始(団体輸送のみ)
大正14年(1925)	9.7 本線八丁町～己斐の復旧運転開始	6.18 軌道併用橋新橋川橋が完成し横川橋軌道専用橋移設
7.15 高島線延長 廿日市～地御前の運転開始 同時に地御前～宮島の連絡船営業を開始	9.12 宇品線紙屋町～向宇品の復旧運転開始	4.30 宇品線廣野橋～広島本社の軌道移設工事完了
大正15年(1926)	10.1 本線山口町～己斐の復旧運転開始	6.20 宮島線鉄道と市内線軌道(市内～草津間)の直通運転開始(午前+ラッシュ時のみ)
7.15 宮島線延長 地御前～新宮島(現在の両品立体交差付近)の運転開始 同時に新宮島～高島の連絡船営業を開始	10.11 本線広島駅前～己斐の復旧運転開始	昭和34年(1959)
昭和6年(1931)	12.26 横川線十日市～別院裏の復旧運転開始	3.31 本線東署前(現船荷町留所)付近および宇品線広島前～御幸橋の軌道移設工事完了
2.1 宮島線延長 新宮島～広島口(現広島宮島)の運転開始 同時に新宮島～広島の連絡船営業を中止	昭和21年(1946)	昭和35年(1960)
昭和10年(1935)	1.7 本線紙屋町ポイントを接続し、本線の循環運行を開始	3.31 横川線十日市～寺町裏の軌道移設工事完了
12.27 宇品線専売局前～向宇品(通称湯乃下線)を現在の宇品線軌道へ移設し、単線を復線化	12.31 軌道車輛58両、鉄道車輛19両が稼働	昭和37年(1962)
	昭和22年(1947)	1.10 恒例ダイヤによる広島駅前～広島十日市の鉄道・軌道直通運転開始
	11.1 江波線江波～土橋の復旧運転開始 廣区町(現木川町)に中央変電所を新築	昭和38年(1963)
	昭和23年(1948)	5.6 広島駅前～広島電島の鉄道・軌道直通運転開始
	7.1 皆実線の橋～専売局前の復旧運転開始	
	8.10 白島線を除き軌道線が全線復旧	
	12.31 軌道車輛124両のうち(自動車1両を含む)のうち、修復などにより稼働車輛94両となる。 鉄道車輛のうち稼働車輛25両	

■図版一覧(敬称略)

- 表紙(左上) 絵/松本政夫
(右) 絵/内田謙
(下) 写真/広島県立文庫館
①-⑥ 写真/松本政夫
⑦ 撮影/川原利雄
⑧ 絵/竹田初夫
⑨ 絵/松本政夫
⑩ 絵/木原敏子
⑪ 絵/森田勇
⑫ 絵/白田謙夫

■参考文献

- ① 絵/竹内初二
② 絵/中野野一
③ 撮影/川原利雄
④ 絵/徳木トシミ
⑤ 絵/丸木明
⑥ 絵/木原敏子
⑦ 絵/中野野一
⑧ 絵/松本政夫
⑨ 提供/中国新聞社
⑩ 提供/Australian War Memorial
表紙裏 撮影/加藤一孝

■参考文献

- 広島電気開業80創立50年史/
広島市軌道株式会社史料編纂委員会
広島路面電車八十五年/広島電気株式会社
電車内被爆者の証言/広島電気株式会社
ヒロシマの被爆遺物は語る—
未来への記録/広島市
広島原爆被災誌/広島市
被爆50周年記念誌広島市史「街と暮らし

- しの50年/広島市
広島城跡のとこ一校澤カメラン写真集—
/広島原爆被災影響者の会



現在の広島を走る路面電車

昭和33年(1958)に広島市の人口はようやく戦前の水準を超え、復興もようやく一段落します。復興から発展へ…。被爆から58年を経た現在、ビルが建ち並び、人々が足繁く行き交う広島を、今もなお4両の「被爆電車」650形が走り続けています。

●ひろしま文化施設ジョイント事業

路面電車が語るヒロシマ

—写真と資料で見る創業・被爆・復興— (広島県立文書館)

■期間：平成15年(2003)8月4日(月)～9月27日(土)

—市民が描いたあの日の記憶— (広島平和記念資料館)

■期間：平成15年(2003)8月8日(金)～平成16年7月末

協力 広島電鉄株式会社

発行 広島県立文書館 広島市中区千田町3丁目7-47

広島平和記念資料館 広島市中区中島町1-2

印刷 東洋館書籍株式会社